

天国の小柴さんへ

田辺 恵理子



お元気ですか。私達に何も言わず行かれてしまうなんて、そちらでも毎日忙しくされている事でしょうね、もうゆっくりしてくださいね。働き過ぎでしたよ。

いまでも1階の受付辺りにエプロン姿の小柴さんが居られるような気がします。三人の息子さん達をお一人で立派に育て上げ、いつもボランティアを終えられたら自転車に乗りJRで大阪の百貨店に買い物に行かれて、息子さんたちの為に宅急便をそれぞれに送られていましたね。

私は火、木、金と一緒に曜日にボランティアをさせて頂き、一から十までご指導いただきました。勉強不足の私には、まだまだ教えて頂きたい事が沢山ありましたが、さっさとそちらへ行ってしまうので。

泊りがけで三度ほど一緒しましたね。小柴さんは痩せているから恥ずかしいと言ってお風呂に入られませんでしたね。あげられるものなら私のお肉をあげたいと言ったら、もらえるものなら欲しいと言って笑って言われていましたね。飲み会にもよく行きました。苦労話とか愚痴とか何も言われず、いつも楽しいお話ばかりでしたね。そして私達のおしゃべりを優しい笑顔で聞いてくださいました。本当に有難うございました。天国から優しく見守っててくださいね。

梅で飲む 茶屋も有るべし 死出の山

バザー開催



昨年12月16日恒例の「えぶろんの会」のバザーが開催されました。ボランティア室が引越して初めてのバザーでしたが、準備万端開店前から大勢のお客さんが来てくださいました。食器、日用雑貨、手芸用品、衣類そして本など、普段よりかなり格安で販売、手作りコーナーではネクタイをリフォームしたミニバッグが大好評で、友達の分まで買っていかれる方も有り即完売になりました。

お客さんとボランティアとの値段の掛け合いも楽しく、持ちきれないほどの商品を買う方もいらっしゃいました。ほんの2時間ほどでしたが、充実した時間でした。手作り教室、値段付け、当日の売り子、そして商品の提供をしてくださった、病院の職員の方々本当に有難うございました。
宝持マチ子

図書便り 13 蔵書からの紹介

佐伯泰英 著 「酔いどれ小藤次留書」

豊後森藩の厩番赤目小藤次は藩主の涙を偶然見た事で君主の恥をそそぐため脱藩し、父親より伝授された来島水軍流を駆使して、大名四家を向こうに回し単身行列先頭の御鍵を奪い取り、一躍江戸のヒーローになる。浪々の身になった小藤次は野菜舟の娘うづと知り合い一子相伝の刀研ぎを生かし、紙問屋久慈屋、老舗料理屋歌仙楼、豊職備前屋と常連客を増やし、水戸家や老中青山下野守とも知遇を得る。忠義を尽くす君主はただ一人。思いを寄せる女性もただ一人。小兵で大顔、もずく蟹のような五十男、大酒のみの愛すべき酔いどれ様が、色々な事件に遭遇し解決に大活躍するシリーズです。

田中智代

健康シリーズ 30 行事食と健康

日本の年中行事には、それにつながる“行事食”がありました。今は皆、作らないでお店で買ってしまい、家庭の伝統行事は失われています。正月のおせち料理、2月は節分の豆まき「福は内、鬼は外」と家の内外に豆をまき、炒った豆を食べながらまめに暮らせるように祈る、3月のひな祭りとお彼岸のお団子やぼたもち、4月のお花見、5月はお節句の柏餅、柏の葉は秋に枯れても葉は木にしがみついて、決して落ちない。春先に新芽が出てくると、使命を果たしたように落ちる。この柏のように強く生きよ、と柏餅を作ったという。6月は梅干漬け、7月は七夕さま、8月はお盆、迎え火を焚いて御先祖さまをお迎えし、好きだった食べ物をお供えし、亡き人を偲ぶ。9月はお月見と秋のお彼岸でお団子とおぼろぎ、10月は秋祭り(収穫祭)、11月は感謝祭、12月は大掃除とお餅つきと、それぞれに行事食があり、手作りで料理を作り、目には見えない自然の恵みに感謝し、家族の健康を祈り、揃って頂いていたのです。

もうすぐ春、野草も芽を出します。野草摘みしながら自然のふところの中で憩い、温かい太陽のぬくもりと共に、根強くたくましく生きる野草たちを思う。踏まれても引き抜かれても根強く消える事がなく増え広がっていく。幼い日の年中行事と共に頂いた行事食は、母の心の味と共に自然の慈しみがしみこんでいる。

ふきのとう、よもぎ、なづな、のびる、おおぼこ、はこべ、ゆきのした、すぎな等の野草たちは何も言わず、あるがままに自然のお悟しのまま生え、必要なばどうぞと無償でくれます。私はこの野草のように生きたいと思う。
あなたと健康 2月号より

私の趣味 29 骨董収集

私にとっての“骨董”とは、古くても今も使用できるもの。例え断片であっても何かしら心引かれるものです。今から五十年くらい前、私がまだ十代の頃に読み未だに心に残っている英国詩人の詩の一説があります。

“星を求める蛾の願い、朝を待ち焦がれる夜の思い、我ら悲しみの淵より遥けきものへ帰依する心いい”(A訳)

限りある生を生きる人間という存在であっても、常に遥かなるものを希み、精一杯生命を燃やして生きた証し、‘魂の音色’といったものを骨董は感じさせてくれるのです。しかし、しばらくすると無性に違う音色のものに会いたくなり、又出かけて行くのです。困った性分です。
穴井 康代



3月・4月の行事予定

- 3月15日(木) 専門学校卒業式
- 3月15日(木) 活動調整委員会
- 3月16日(金) リーダー懇親会
- 4月 9日(月) 第1回 リーダー会
- 4月10日(火) 看護専門学校入学式
- 4月19日(木) 活動調整委員会

— あとがき —

寒い毎日が続き、まだインフルエンザも流行しています。皆さんの健康法など、いろんなご意見や投稿をお待ちしておりますので、お気軽にお声を掛けてください。よろしくお願い致します。

広報部